

「ささいなことからやってみよう」世界を変える考えかた

NISSAY SDGs INFORMATION



SDGsや世界のさまざまな社会課題。
規模が大きくて「自分には無縁」と思ってしまう。
でも、実は自分のささいな行動が解決につながることもある。
「身近でも、取り組めることがあるんだ」
そう思えるきっかけになれば、という想いでお届けする情報紙です。

5つのPから考えるSDGs

SDGsの17の目標は、目的別に大きく5つに分けることができます。「5つのP」の視点で考えるとよりイメージしやすく、目指すものがわかりやすくなります。

5つのPについて詳しく
知りたい方はこちら



今回は **people (人間)** に焦点を当てて考えてみましょう。貧困と飢餓をなくし、すべての人が尊厳を持ち、平等・健全な環境のもとでその能力を発揮できるようにする、というのがpeople (人間) に関わるSDGs目標1~6です。

日本は、医療や公衆衛生の設備が整い充実している一方で、そこに暮らす人々の格差の拡がりや、子どもの貧困など、誰もが持てる能力を発揮できる社会の実現のためには多くの課題があります。



出典：国連広報センターウェブサイト
SDGsを広めたい・教えたい方のための「虎の巻」

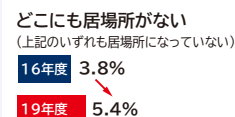
子ども・若者たちの居場所

今の子どもたち・若者たちにとって、「居心地がよい」と思える場所が減ってきています。「どこにも居場所がない」と感じている子どもたちは、社会との接点が希薄で、様々な悩みを一人で背負い、孤立し、未来に希望を抱くことができなくなっています。

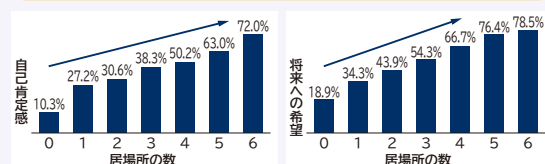
居心地がよい場所、自分らしくいられる居場所がたくさんある子ほど、自己肯定感が高く、前向きな将来像を描くことができます。子どもたちと社会とのつながり、なかでも、信頼できる多くの大人との交流が希望ある未来を生み出していると言えます。

家庭や学校以外にも、様々な交流や体験の機会を得られる居場所を持つことができれば、未来を担う子どもたち・若者たちが、自らの将来を切り拓くための社会性や主体性を育むことにもつながります。

ほっとできる場所、居心地のよい場所は？



居場所の数と自己認識の関係



出典：内閣府「令和3年版 子供・若者白書(全体版)」子供・若者インデックスボード

様々な団体の取り組み

家庭や学校以外に、居場所を提供する取り組みが広がり、自治体やNPO等の団体が実施しています。そのほんの一部をご紹介します。

一社)若草プロジェクト

様々な困難を抱え、生きづらさを感じている少女や若い女性を支援し、社会とつなげ、自立へのサポートをしています。

東京の秋葉原の近くに「まちなか保健室」を開設し、少女たちがふらっと立ち寄って安心できる居場所を提供しています。



NPO法人)キッズドア

すべての子どもが夢や希望を持てる社会の実現へ向けて、東京・千葉・東北で「無料学習会」の運営や居場所支援を実施しています。

家や学校ではない第三の居場所として、子どもたちがホッと一息ついて、エネルギーを蓄えられる場所を提供しています。



行政の取り組み

日本でも2021年2月、内閣官房に孤独・孤立対策担当室が設けられ、社会的不安に寄り添い、深刻化する社会的な孤独・孤立の問題について総合的な対策を推進しています。



悩み相談先一覧 (内閣官房HP)

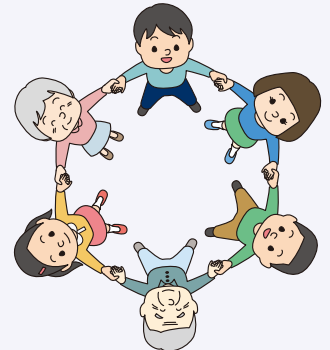
できることから始めてみましょう

上記以外にも様々な団体が居場所をつくる取り組みを展開しています。

「居場所 ○○町」等で検索すると、地域で活動している団体を見つけることができます。団体を支援する寄付は募金だけでなく、読み終わった本や成長した子どもの服などを寄贈することで、役立ててもらうこともできます。

また、子どもを見かけたら声をかけるなど、皆さんひとりひとりが地域の見守りの担い手として参加し、子どもたちから“信頼できる大人”として認知されることで、子どもたちが安心して過ごすことのできる地域を創ることに繋がります。

想いを一歩行動に移すことで、地域に笑顔が増えていきます。



サンクスマイルでの寄付

日本生命のご契約を継続いただくことで溜まる「サンクスマイル」。

様々な賞品との交換のほか、ご関心のある社会課題の解決に向けて取り組んでいる団体へ寄付していただくことができます。



詳しくはこちら

ずっとともにサービス

この情報を、みなさまの大切な方々へぜひお伝えください。持続可能な社会づくりへ向けて、取り組みの輪を拡げていきましょう。

日本生命は事業活動を通じてSDGsの達成に貢献していきます。

SDGs(Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)とは、2015年9月の国連総会で採択された、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のために、2030年までに達成すべき17のゴールです。当社は、これまでもSDGsと関連するさまざまな商品・サービスの開発・提供、資産運用等に取り組んでおり、今後も事業活動を通じて社会的課題の解決に貢献していきます。



日本生命のサステナビリティへの取り組みはこちら



SDGsについて知りたい方はこちら (Edu Town SDGs HP)

